

講義名：文学－和歌の変容、短歌の展開　＜秋集＞		ナンバリングコード：0			
担当教員名：松澤　俊二					
研究室：聖アンデレ館6階611号室		オフィスアワー：水曜日2限			
		メールアドレス：			
授業形態					
『講義』『実技』『プレゼンテーション』					
講義・演習概要					
この講義では、古事記・日本書紀に現れた歌謡から万葉集や古今集の和歌、さらに時代を下って明治期以降の近代短歌、アジア・太平洋戦争以降、現在に至るまでの現代短歌を検討対象とする。その表現方法や内容が、折々の世相や政治状況、思想等々どのように関わりながら変遷していったかを考究するものである。ゆえに講義の核は、短歌という文学表現の変遷であるが、それを理解するためには歴史的な、文化史的ないくつかの分野にまたがる知見が要請されることとなる。 受講生にはいくつかの点で努力を求めたい。まず、歌は57577の5句31音からなる小さな文学作品だから、一語一語の慎重な読解が必要である。それぞれの語の内容を理解するために、辞書等を引くことが重要である。また作品には直接表現されていない「余白」を埋める想像力を働かせること。さらには作品の背景である作者や時代についての知識を身に付けることも必要だろう。このようにして短歌を読み解くためのスキルを身につけ高めて欲しいし、また各時代の日本社会の様相を理解し、さらに我々の生きる「現在」についての知見を身に付けてくれればと願っている。 ※注意して欲しいのは、前半終了時に実施する4000字の授業内レポートである。コピペ、字数不足等で「不可」となる学生が例年多い。成績評価の大きなポイントなので、自力で書き上げる自信のないものには受講を勧めない。優秀なレポートには授業内で発表してもらう。 ※※また受講生が自作の歌を持ち寄り、相互に批評、議論する場である歌会（うたかい）を催す。創作意欲のある学生の受講を望む。					
学習目標					
・作品の一語一語を吟味し、一首を理解、鑑賞する力を身につける。 ・和歌・短歌の表現方法、内容の歴史的な変遷を理解する。 ・時代資料としての和歌・短歌の鑑賞から、同時代的な日本社会、文化状況等を理解する。					
講義・演習計画					
【第1回】ガイダンス	【第16回】歌会Ⅱ				
【第2回】「文学」・「短歌」とは何か①	【第17回】中世歌謡				
【第3回】「文学」・「短歌」とは何か②／現代に生きる”短歌”	【第18回】近世期地下歌人の和歌について				
【第4回】歌会Ⅰ	【第19回】近代国家の発足と「和歌」の再発見				
【第5回】記紀歌謡	【第20回】和歌から短歌へ①―樋口一葉と与謝野晶子の歌				
【第6回】万葉集①	【第21回】和歌から短歌へ②―正岡子規				
【第7回】万葉集②	【第22回】「アララギ」派の展開				
【第8回】万葉集③	【第23回】石川啄木について				
【第9回】和歌のレトリック	【第24回】歌会Ⅲ				
【第10回】古今和歌集①	【第25回】プロレタリア短歌				
【第11回】古今和歌集②	【第26回】アジア・太平洋戦争期の短歌				
【第12回】新古今和歌集①	【第27回】前衛短歌				
【第13回】新古今和歌集②	【第28回】俵万智以とそれ以降の短歌				
【第14回】百人一首	【第29回】学生優秀レポート発表				
【第15回】プチ吟行会－桃園学院を詠む	【第30回】試験およびまとめ				
成績評価の方法					
試験	40%	レポート	40%	出席	20%
コメント	「講座概要」でも触れたとおり4000字のレポートを実施する。ネットからのコピペ、書籍のまる写し等には毎年厳正に対処している。評価の際、もっとも重視するのは“自分でどれだけ考えたか”である。				
テキスト					
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
著書		タイトル			
ISBN		出版社			
教科書購入区分	選択なし	備考			
参考文献					
高校などで使用していた「古語辞典」を携帯すると良い。2000円から3000円前後で手に入るものならば、どんなものでも良い。わからない言葉や表現などを調べるために役立つだろう。教員の話聞くだけでなく、自分で調べることで理解が深まるし、作品を楽しむことが可能となるはずだ。					
事前および事後学習の指示（事前学習 60 時間・事後学習 60 時間）					
・受講生諸君にとって和歌・短歌は、あまりなじみの無い文芸と思われる。だが現代でも、多くの新聞が「歌壇」コーナーなどを設けており、人々の表現の重要な一手段となっている。平素からそれらを見ておくと、授業の理解も深まるだろう。					
・短歌を理解するための近道は、なにより自分で作ることである。57577の定型を守るとい以外に作成ルールは無いから、時間のあるときにでも自分の発想を定型にまとめ、作歌してみるといい。講義内でも3度ほど作歌、歌会の時間を設けたいと考えている。					
その他備考（担当教員用）					
キーワード					

備考(管理者用)